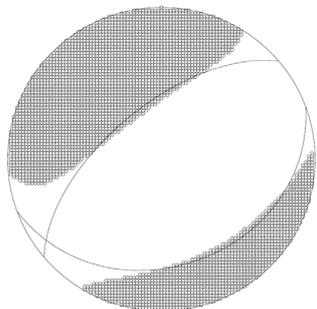


1月19日 パキスタン南西部の地震 (W-phase を用いたメカニズム解析)

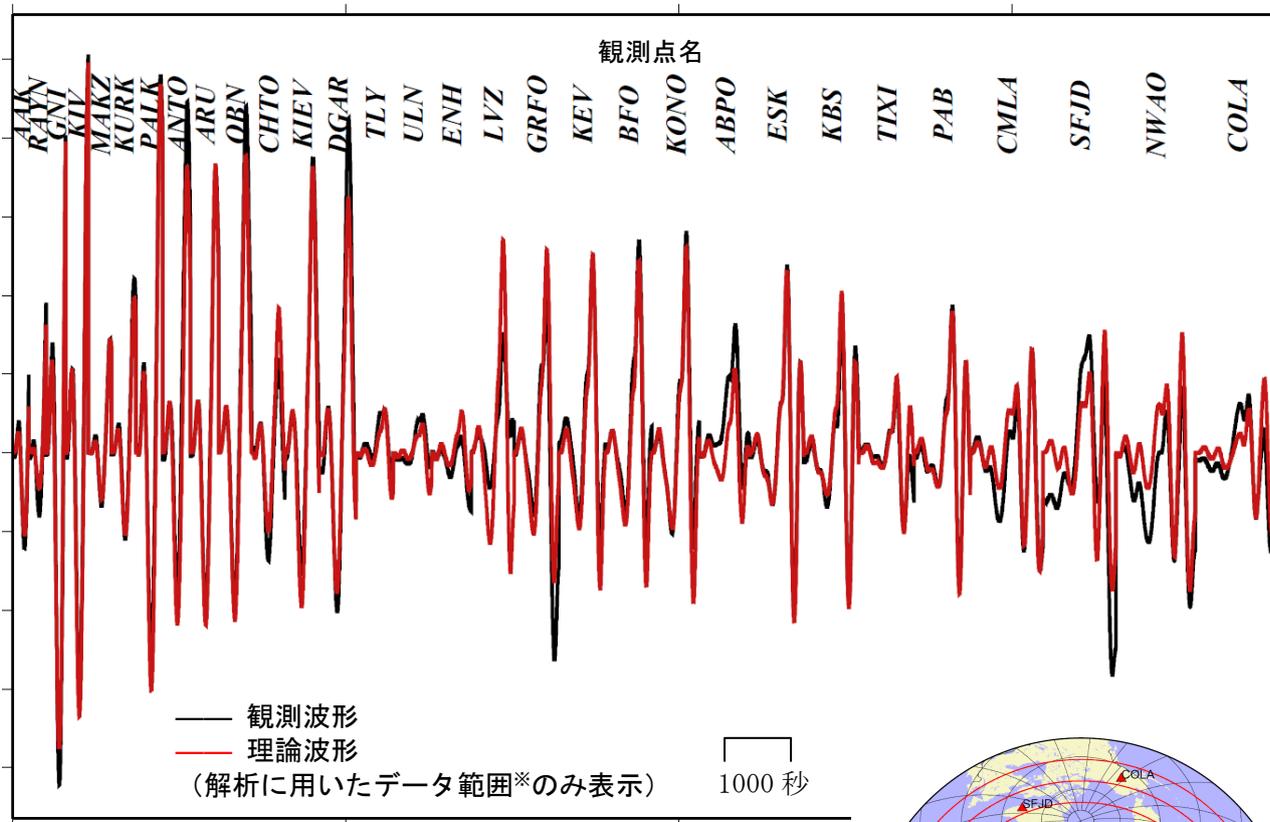
W-phase による解



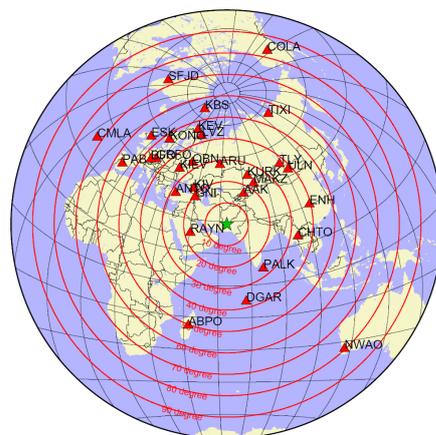
2011年1月19日05時23分(日本時間)にパキスタン南西部で発生した地震について W-phase を用いたメカニズム解析を行った。メカニズム、Mwとも、Global CMTなどの他機関の解析結果とほぼ同様であり、Mwは7.2であった。なお、最適位置はN28.6°, E63.7°となった(深さはUSGSによる68.0kmを使用した)。

W-phaseの解析では、震央距離10°~90°までの30観測点の上下動成分を用い、200~1000秒のフィルターを使用した。
注)W-phaseとはP波からS波付近までの長周期の実体波を指す。

Mw7.2(7.20)



※解析に用いたデータの範囲は15秒×震央距離(度)としており、各々の観測点の解析区間のみを繋げた波形を表示している。



解析に使用した観測点配置

(W-phaseに関する参考文献)
Kanamori, H and L. Rivera (2008): Geophys. J. Int., 175, 222-238.

IRIS-DMCより取得した広帯域地震波形記録を使用した。また、解析に使用したプログラムは金森博士に頂いたものを使用した。記して感謝する。